資料

知的障害者に焦点を当てた看護教育に関する文献検討
A Literature Review of Nursing Education on People with an Intellectual Disability

神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部看護学科　金　壽子
Sooja Kim, School of Nursing, Faculty of Health and Social work,
Kanagawa University of Human Services

抄　録

目的：知的障害者に焦点を当てた看護教育について文献検討を行い、知的障害者に対応できる看護師育成プログラム検討のための示唆を得る。

方法：Cochrane Libraryで文献レビューを確認、電子データベース（医学中央雑誌WEB版Ver.5，最新看護索引Web，メディカルオンライン，JDreamIII，CINAHL，PubMed）で、和文献はキーワード「知的障害」and「看護教育」で検索、英文献は「intellectual disabilit*」and「education」and「nursing」としabstract有で検索を行った。検索結果についてタイトル・抄録内容の確認、判断困難時は全文確認を行った結果、分析対象文献は和文献３件、英文献８件の計11件であった。これらの文献について、教育対象、教育内容、教育方法、教育評価等についてマトリックスを作成・整理した。

結果：研究は2000年頃から示され、看護基礎教育の一部の科目として教授され、看護継続教育では、看護師に対する介入研究として効果が示され、知的障害看護師の大学院進学希望があることが示された。ただし、教育内容については、世界的な基準として全体の方向性を示すまでには至っていないことが明らかとなった。

考察：本結果から、今後は知的障害者に焦点を当てた看護継続教育プログラムについて教育内容を精選していく必要性が示された。

キーワード：知的障害，看護教育，文献検討
Key words：intellectual disability，nursing education，literature review

はじめに

障害者に対する世界情勢は、2006年のUnited Nationsより出されたThe convention on the rights of persons with disabilities.により、障害者に関する権利擁護が重要視されるようになり、更に2012年のInternational Council of Nurses Code of Ethicsにおいて、障害を持つ人々の内在する権利を尊重するような看護が求められている。

そのようななか、知的障害者に対する世界的な動きを鑑みると、2000年にThe World Health Organization（WHO）から出された“Healthy Ageing-Adults with Intellectual Disabilities（ID）”によって、全世界において知的障害者に対して医療者による適正な健康アセスメントが重要であることが明示されている。

日本の知的障害者の現状においては、一般の人口動態と同様に知的障害者も第２次ベビーブーム世代が40代に突入しており、今後、知的障害者の健康問題は深刻化するのは容易に想像できる。加えて、多

著者連絡先：神奈川県立保健福祉大学看護学科
〒238－8522　神奈川県横須賀市平成町１－10－１
（受付　2016.9.15　／　受理　2017.1.5）

くの知的障害者は自己の健康状態を他者に伝えることが困難である場合が多く、不適切な医療ケアを受けているという報告がされている（Lennox NG, 1997）。その点で健康問題に関与する看護師の担う役割は今後更に拡大することが予想される。

一方、Trollor JN et al.（2016）やDoody O et al.（2012）が報告しているように、知的障害者に対応するための看護教育については未だ未開発の領域であり、更なる発展が望まれることも報告されている。

そこで、知的障害者に適した医療を提供する上で、適正な看護教育プログラムを検討することが必要であり、研究として方法論が検討されている看護教育内容について文献検討を行うことで、知的障害者に対応できる看護師育成プログラム検討のための示唆を得る。

目的

知的障害者に焦点を当てた看護教育について文献検討を行い、知的障害に特化した看護教育の実践状況を確認することで、知的障害者に対応できる看護師育成プログラム検討のための示唆を得る。

方法

国際的なEBM（科学的根拠に基づく医療）の情報源となるデータベースCochrane LibraryによるCochrane Reviewにて、キーワード検索（2016年9月7日時点）を行った結果、「intellectual disability」105件、「nursing education」36件、「nursing curriculum」128件が検出された。全文献のタイトルと抄録を確認した結果、知的障害者に焦点を当てた看護教育のエビデンスに関する文献がないことを確認した。

次に、電子データベースにて和文献及び英文献について検索（2016年9月7日，9月12日時点）を行った。和文献について、医学中央雑誌WEB版Ver.5で、シソーラス検索にて「知的障害」「看護教育」は統制語として分類されていた。「知的障害」の以前に使用されていた「精神遅滞」はシソーラス「知的障害」に含有されていた。「カリキュラム」はシソーラス分類で下位語に「教育プログラム」を含んでいるものの「看護教育プログラム」は候補語の該当外であったため、キーワードを「知的障害」「看護教育」と設定して「収載誌発行年記載なし」で検索した結果、11件が検出された。同様に検索を行い、最新看護索引Webでは2件、メディカルオンラインでは2件、JDreamIIIで7件が検出された。英文献について、CINAHLではCINAHL headingにて「nursing education」を検索した結果、「education」の下位に「nursing」となっていたため、「intellectual disabilit*」and「education」and「nursing」とし検索オプションを「抄録あり」として検索を結果、295件が検出された。PubMedもMeSHでキーワードを確認し、CINAHLと同様のキーワードと検索オプションにて741件が検出された。「intellectual disability」の以前に用いられていた「Mental retardation」はCINAHL及びPubMedともに「intellectual disability」に含有されていた。

各々の電子データベースについて、和文献についてはタイトル、抄録がある場合には抄録から、英文献についてはタイトルと抄録から、知的障害者に焦点を当てた看護教育に関する文献であるかどうかの確認を行った。今回は知的障害に特化した看護教育内容を検討するため重複障害となる「重症心身障害」は除外した。加えて、精神疾患の診断・統計マニュアル第5版（DSM-5）の分類を踏まえ、「学習障害」「発達障害」「learning disability」は除外し、「知的発達障害」「intellectual and developmental disability」は該当文献に含めた。タイトルや抄録から判断が困難であった文献は全文確認を行った。その結果、重複文献を整理し渉猟できた分析対象文献は和文献3件、英文献8件の計11件であった。

分析方法として、「著者（発行年）」「タイトル」「該当国」「収録誌」「対象」「数」「研究方法」「教育内容」「教育方法」「教育評価項目」「有効性」「頁数」「その他」を横軸に、各文献を縦軸にマトリックスを作成し、知的障害に特化した看護教育の実践状況と動向を確認した。

結果

知的障害者に焦点を当てた看護教育に関する7文

献のマトリックスを表１に示す。

「著者（発行年）」は2000年以降となっており、「該当国」は米国４件、豪州３件、日本３件、英国１件となっている。今回の研究ではLearning Disabilityを除外しているたが、対象文献を選別する際に、Learning Disability Nursingに関する看護教育関連文献は英国から多数発表されていた。

「収録誌」は雑誌が７件、抄録集２件、施設研究年報、報告書が各１件であった。

「対象」は看護学生に関するものが５件、看護師に関するものが３件、教育機関が２件で、「数」について７件は50人以下であった。４件が50人以上であった。

「研究方法」は在宅看護学や小児看護学の一部として授業が３件、実態調査が２件、介入研究が１件、プロジェクト研究が１件であった。

「教育内容」は授業では事例、それ以外では知的障害看護に求められる疾病や遺伝、メンタルヘルス、対人関係等の内容が多岐にわたって展開されていた。

「教育方法」は授業に関するものは事例に関するグループワークやロールプレイングが展開されていた。介入プログラムの実施がされていた。豪州の全看護学部への調査では、知的障害者の教育プログラムが31学部中５学部（16%）にとどまっていた。

「教育評価項目」は授業内容をプロセスレコード、評価表、ワークブックを用いて評価を行っていた。ワークブックの使用については、試験による評価よりも学びがより広がっているという結果を示していた。

「有効性」については授業や介入において結果が得られていたが、明確な数値による評価はなされていなかった。

その他、知的障害看護を学習した看護師201人に対して行った調査で、168人（82%）が知的障害者に関する大学院コースを選択したいという意向を示していた。

全体を概観して、知的障害者に対する看護教育の研究は2000年頃から示されているが、知的障害に特化した看護教育の実践状況では看護基礎教育の一部の科目で事例として「知的障害者の看護」について教授されていた。文献No １の豪州の調査結果からも、看護基礎教育での知的障害者への看護に関する教育は少ない状況が示されていた。逆に、看護継続教育においては、一般の看護師に対する介入研究で知的な部分の効果が示されており、知的障害看護師にとっては、大学院での更なる学習を勧めたい状況があることも示された。ただし、教育内容については、各々の研究や機関で提示をしており、世界的な基準として全体の方向性を示すまでには至っていないことが明らかとなった。

考察

知的障害者に焦点を当てた看護教育について文献検討を行った結果、2000年という近年になってから知的障害者に対する看護教育の実践報告がされるようになっていた。知的障害者の看護教育は知的障害者のニーズにあっているのかという疑問についてRuthら（2014）もそのニーズにあった看護教育が必要であることを指摘している。看護教育の在り方についても、Gardnerら（2012）、Doodyら（2012）、Sweeneyら（2011）も、豪州や米国、英国での知的障害者に対する看護教育の在り方について検討がなされている。海外においては知的障害看護師Intellectual Disability Nursingに対するプログラムやDevelopmental Disability Nursing Association（DDNA）など知的障害看護に関する組織によっても対応がなされている。一方で海外でも未だ知的障害者に対する看護教育の内容について検討をしている最中であり、今後さらなる研究が必要であることが示された。

日本においては、保健師助産師看護師学校養成所指定規則（2014）における看護教育の指定規則においても知的障害者に関する教育内容は触れられておらず、この点で、看護継続教育において、知的障害看護師を対象とした教育について教育プログラムを検討することが、より実現性が高い方向であると推測される。

先にも述べたとおり、教育内容については、各々の研究や機関で提示をしており、世界的な基準として全体の方向性を示すまでには至っていない点で、知的障害看護の教育内容の精選について、更に研究を進める必要性も示された。Trollor（2016）も述

表1　知的障害者に焦点を当てた看護教育

No	著者（発行年）	タイトル	該当国	収録誌	対象	数	研究方法	教育方法	教育内容	教育評価項目	有効性	頁数	その他
1	Trollor.JNら（2016）	Intellectual disability health content within nursing curriculum: An audit of what our future nurses are taught.	豪州	雑誌	豪州全看護学部(35)に参加呼びかけ	31学部	インタビュー＋電話とe-maiによる調査	包括的な実践として直接的に知的障害者に関わっていた学部は5学部（16%）	知的障害者への教育を含むメンタルヘルスに関するテーマ　臨床アセスメントスキル、倫理、法的課題に関するトピックス　教育時期も3年間に及んでいる	記載なし	殆どの学部で、知的障害者に関する具体的な教授内容の提示無し	8	
2	Johnstonら（2013）	Intellectual and developmental disabilities nursing: An educational intervention in the District of Columbia.	米国	報告書	看護師	48人	介入研究	終日プログラムによる介入 Lewin's change model	遺伝疾病、コミュニケーション問題、一般的な合併症、知的発達障害者への標準実践、知的発達障害の健康とウェルネス、時間管理、看護師の役割等	事前事後評価 介入直後、介入後3カ月・6ヶ月後に5段階のリッカート方による評価実施	プログラムに参加した87%の看護師が自信と実際の実践の変化があると答え、93・8%がプログラムのトレーニングを推奨	81	
3	定金 直美ら（2012）	障害者支援施設における看護学生のふれあい実習での学び	日本	抄録集	看護学生 3年課程3年次	31人	実習研究	小児看護学実習	知的障害児通園施設の実習　2日間	「施設の実習を通して」というテーマで400字以上の自由記載レポートを実習終了後1週間以内に提出する。	①知的障害児への援助の特徴、②安全への援助の重要性、③日常生活援助の特徴、④施設の意義と役割、⑤施設・設備の特徴、⑥多職種の連携、⑦家族への思いについて学びを得る　①・②で半数以上	1	
4	Doodyら（2012）	Intellectual disability nursing assessment: student reflections.	英国	雑誌	知的障害看護の4年生大学1年次	2人	授業研究	第1学期に Gibbs' (1998) cycleを用いて講義・演習を実施	アドボカシー、ノーマライゼーション、早期介入、脱施設化、地域居住、権利と資格、政策展開、コミュニケーション、知的障害看護師の役割と歴史、ケア哲学、ケアアプローチ／モデル、障害に対する態度、診断、原因、分類、有病率、用語とラベリング、看護師ー患者関係、家族支援、チームワーク（他職種連携チーム）	ポジティブとネガティブの側面についてワークブックを用いて評価	試験による評価よりも、ワークブックを用いて学習を進めることで幅広い知識や考えが深まった	4	
5	Goddard L;ら（2010）	Functional clinical placements: a driver for change.	豪州	雑誌	①家族 ②看護学生 ③ﾌﾟﾗｸﾃｨｼｮﾅｰ	①5人 ②9人 ③2人	プロジェクト研究	プロジェクトとして知的障害児の家族へ介入	家族への健康促進と家族の病気のリスクの軽減を図るために家族に関わる	気づきと価値づけ、理解が主たるテーマ	大学のコニュニティーに焦点をあてた専門職体験実習のモデルとして今回のプロジェクトの有効性が示された。	7	
6	Boyd SEら（2008）	Virtual patient training to improve reproductive health care for women with intellectual disabilities.	米国	雑誌	看護学生	101人	プロジェクト研究	CD-ROMを使用したモジュール	障がい者事例として8事例提示	学生の学習コンピテンシー15項目	前後で障害の状況項目と知識において効果が示された。	12	
7	Sanders CLら（2007）	Caring for children with intellectual and developmental disabilities: virtual patient instruction improves students' knowledge and comfort level.	米国	雑誌	ナースﾌﾟﾗｸﾃｨｼｮﾅｰの学生	98人	プロジェクト研究　前後テスト	マルチメディア（CD-ROM）による	ナースプラクティショナーのコア発展チームと大学の検討した2モジュールを作成	学生臨床目的を22項目を検討	前後で知識において、モジュールの有効性が示された	10	
8	Sweeney Jら（2007）	Intellectual disability nurses' interest in undertaking postgraduate education.	豪州	雑誌	知的障害看護師	201人	質問紙調査		要望；対人関係とカウンセリング、高齢者ケア、発達教育、コミュニケーション・スピーチと言語、アドボカシーと活性化、二重診断、緩和ケア、地域看護、訓練と雇用、レスパイトアセスメントと介入、健康増進、重複障害、行動管理、感覚発達等		大学院教育に対して、168人（82%）が地理的に可能であれば専攻したい要望有	8	
9	小野 晴子ら（2006）	ダウン症候群児を持つ両親への関わりの模索　ロールプレイングによるプロセスレコードの分析を通して	日本	抄録集	大学4年次	8人	授業研究	ダウン症候群児を持つ両親に関する文献検討を経て、障害告知場面のロールプレイング演習	ダウン症候群児を持つ両親への関わりについてロールプレイング	①ロールプレイングを通した言動からのプロセスレコード ②実演後の自由記載内容 ヘイズ＆ラーソンの「看護実践と言葉ー患者との相互作用ー」を用いて"関わり"を分析	記載なし	1	会議録
10	Hahn JE（2003）	Addressing the need for education: curriculum development for nurses about intellectual and developmental disabilities.	米国	雑誌	Developmental Disability of Nursing Association加入者		知的障害者カリキュラム発展プロジェクト研究	マルチメディアカリキュラム運用	プロジェクトの課題：知的発達障害看護のための、知的障害看護カリキュラムの発展：発達障害のある個人の看護ケア、知的障害のあるクライエントケア、インストラクティブなマルチメディアカリキュラム、発達障害や知的障害に対する看護師のためのコアカリキュラム、ライフスパンを踏まえた看護、発達障害にともなう状態や症候、乳児幼児の健康リスクファクター、てんかん発作ケア、行動的課題の理解、感染予防、薬物問題、セクシャリティ、ガイドライン、加齢に伴う問題と課題		プロジェクトは進行中	20	
11	曽山 加奈子ら（2001）	「精神遅滞をもつ患者の看護」の授業展開と評価	日本	施設研究年報	専門学校2年次	40人	授業研究（参加観察法）	専任教員・臨床指導者6人にて1コマ75分、事例についてグループワークを展開	在宅看護学の「心身障害者（児）の看護」 単元「精神遅滞をもつ患者（児）の看護」	松田らのアンケート内容を参考に「授業技術」「学習方略」「到達度」要素18項目による授業評価を学生と教員が実施	精神遅滞児の理解、精神遅滞児の援助の理解は、対象のイメージ化がしにくいため低い評価となっている。臨床実習に転移して理解させる必要あり	10	

べている通り、適正な医療を提供するためには、看護教育に加え、チーム連携による教育体制も必要となる。

近々の問題としては、WHO（2000）からもHealthy Ageing-Adults with Intellectual Disabilitiesにおいて成人期以降の知的障害者の健康問題への対応が必須とされ、日本でも第２次ベビーブーム世代が40代を超えていることを見据え、知的障害者の特に成人期以降の健康問題に対応できる看護師育成のための教育プログラムを今後検討していく必要があろう。

結論

１．全体を通して、知的障害者に対する看護教育の研究は2000年頃から示されていた。
２．知的障害に特化した看護教育の実践状況では看護基礎教育の一部の科目で事例として「知的障害者の看護」について教授されていた。
３．看護継続教育においては、一般の看護師に対する介入研究で知的な部分の効果が示されており、知的障害看護師にとっては、大学院での更なる学習を勧めたい状況があることも示された。
４．教育内容については、各々の研究や機関で提示をしており、世界的な基準として全体の方向性を示すまでには至っていないことが明らかとなった。

引用文献

Boyd SE, Sanders CL, Kleinert HL, Huff MB, Lock S et al. (2008). Virtual patient training to improve reproductive health care for women with intellectual disabilities. *Journal of Midwifery & Women's Health ; 53(5):* p453-460.

Doody O, McInerney P, Linnane L. (2012). Intellectual disability nursing assessment: student reflections. *Br J Nurs.; 21(6):* 345-348.

Doody O, Slevin E, Taggart L. (2012). Intellectual disability nursing in Ireland: identifying its development and future. *J Intellect Disabil.; 16(1):* 7-16.

Gardner, Marcia R. (2012). Preparing nurses to care for people with developmental disabilities: perspectives on integrating developmental disabilities concepts and experiences into nursing education. *Nursing Clinics of North America; 47(4):* p517-527.

Hahn JE. (2003). Addressing the need for education: curriculum development for nurses about intellectual and developmental disabilities. *Nurs Clin North Am.;* 38(2): 185-204.

保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則［2016.9.16］URL: http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S26/S26F03502001001.html

International Council of Nurses Code of Ethics（2012）（http://www.icn.ch/images/stories/documents/about/icncode_english.pdf）

Johnston, Kimberly S.(2013). Intellectual and developmental disabilities nursing: An educational intervention in the District of Columbia. *Capella University;* D. N. P. p-1-89.

Lennox NG, Diggens JN, Ugoni AM. (1997). The general practice care of people with intellectual disability: barriers and solutions. *J Intellect Disabil Res.41:* 380-390.

小野晴子，板野みえ子，小島真弓．（2001）．「精神遅滞をもつ患者の看護」の授業展開と評価　*旭川荘研究年報32（1）；* p1-10.

定金直美，羽井佐米子．（2012）．知的障害者支援施設における看護学生のふれあい実習での学び，*旭川荘研究年報43（1）；* p70-75.

Sanders CL, Kleinert HL, Free T, Slusher I, Clevenger K, Johnson S, Boyd SE. (2007). Caring for children with intellectual and developmental disabilities: virtual patient instruction improves students' knowledge and comfort level. *J Pediatr Nurs.; 22(6):* pp457-66.

Sweeney JF. (2011). The role of the Irish Division of the Royal Medico-Psychological Association in the development of intellectual disability nursing in Ireland. *Can Bull Med Hist. 28(1):* 95-122.

Sweeney J, Dalton C. (2007). Intellectual disability nurses' interest in undertaking postgraduate education. *Learning Disability Practice 10(2):* 30-37.

曽山加奈子，山本純子，二川香里，永山くに子.（2006）．ダウン症候群児を持つ両親への関わりの模索　ロールプレイングによるプロセスレコードの分析を通して．*母性衛生47（3）；*p202.

Trollor JN, Eagleson C, Turner B, Salomon C, Cashin A, et al. (2016). Intellectual disability health content within nursing curriculum: An audit of what our future nurses are taught. *Nurse Educ Today. 45:* 72-9.

United Nations.The convention on the rights of persons with disabilities. 2006.［cited 2016 Sep 16］New York, NY.
Web site: URL: http://www.un.org/disabilities/convention/conventionfull.shtml）

World Health Organization: Healthy Ageing-Adults with Intellectual Disabilities-Summative Report, 2000.［cited 2016 Sep 16］
Web site: URL: http://www.who.int/mental_health/media/en/20.pdf, 6-9.